

JCI神戸大会

第25回生コンセミナーから

〈下〉

コンクリート工学年次大会2018(神戸)で開催された第25回生コンセミナーの第3部は、日本コンクリート工学会(JCI)が16年度に設置し、今年3月に活動を終えた「アメージング生コン業界における職場環境の具体的な改善策や今後のイメージ戦略の方向性などを討議した。冒頭、検討委員会から調査研究成果をもとに①生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望②製造システムのイメージと未来展望の女性技術者の活躍の場を広げるためのJIS改革の3件の話題提供があった。



生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望②製造システムのイメージと未来展望の女性技術者の活躍の場を広げるためのJIS改革の3件の話題提供があった。

ンクリート甲子園」などの事例を取り上げ、「生コン業界の未来に關して、何が正解なのかはわからない。しかし、手をこまねいていては現状は良くならない。われわれ自身が仕事を創り、未来を変えようという発想で、業界にイメージをを引き起こしていくことが重要だ」と述べた。



生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望②製造システムのイメージと未来展望の女性技術者の活躍の場を広げるためのJIS改革の3件の話題提供があった。

てはならないが、ヒントとなるのは滋賀県・近江商人の「三方よし」の精神ではないか。生コンの立地条件のよさを最大限に生かして、技術の「見える化」、女性の進出誘導、地産地消などを進めることで、売り手よし、買い手よし、世間よしのイメージ展開を図るべきとした。

が載ると13キ。これらは、女性を含め多様な人々の参入を阻む障壁となりうる。今後に向け、三つのステップを提案したい。第1段階の「試験器の軽量化」では労力の軽減を図り、第2段階「各種試験方法の抜本的改革」では必須ではない業務・作業の撤廃を目指す。第3段階で「性能規定型生コンJISへの移行」に至ると、多様な人材や工場の個性を生かせる生コン工場の部品の登壇者も含めて視野し、規格の変更まで視野に入れた生コン業界の革新の可能性について、課題や期待も含めて様々な意見が出された。

最後に、フロアの意見として長瀬重義東京工業大学名誉教授が「日本工業規格が近く日本産業規格となり、JCIなどで

軽い試験器「前提に」

障壁除く取り組み提案

①については、岡本主査がコンクリートやコンクリート製造業に関する各種イメージ調査の結果を紹介。「大学生にアンケートを行うと、『重要な社会基盤の土台である』といった回答もあった。『コンクリートに力を入れていかなく

②については、岡本主査がコンクリートやコンクリート製造業に関する各種イメージ調査の結果を紹介。「大学生にアンケートを行うと、『重要な社会基盤の土台である』といった回答もあった。『コンクリートに力を入れていかなく

③については話題提供した大内雅博高知工科大学教授は「圧縮試験の供試体の鋼製型枠は試料込みで重さ約8kg、エアメーター試験器は試料込みで22kg、スランションは8kg、自己充てん用フロア板は重さで上に試料

器を使い続けるより生産しつかりとした原案作成委員会を組織すれば生コンのJISは変えやすくなる可能性がある」とアドバースした。

続いて、友澤史紀東京大学名誉教授は「現行の基準にある数値に縛られ過ぎ。数値の多くは目安であり、どのような考え方に基づいたものなのかを判断しなければならない。必ず守らなければならない数値もあれば、場合によっては他の対策を取ることで厳密に考える必要のなくなる数値もある。女性の活躍に關しては、男女の違いをこさらに強調する必要はないと感じた。どちらも自分の持ち場で責任を果たせればそれでよい。試験器等を軽量化することも当然の話。コンクリート分野の進歩の遅さが表れている」とコメントした。